

第 5 回大阪駅周辺地域部会での主な意見

森会長（関西経済連合会）

- ・新産業創出、国際集客・交流、知的人材育成の 3 つを中核機能とすることについては関経連として大いに賛同するが、それと「みどり」が有する癒し、安らぎの機能とがしっかりと両立したものでなければならない。また、防災の観点や先行して開発されたグランフロント大阪との相乗効果を打ち出すことも重要。

灘本専務理事（大阪商工会議所）

- ・歴史的に大阪に関連機関の一定の基盤が存在し、国際競争力の観点からも、今後の成長がさらに期待でき、国家戦略特区の位置づけ等とも整合することから、先端医療機関、研究機関、医療人材、関連企業等を高密度に集積させた中核拠点の形成が重要。こうした中核拠点は、国内のみならず海外を含めて、先端医療を求める人や研究者、産業界の人材等が集いやすく、かつ、交流しやすい場所に立地しなければならない。

篠崎常任幹事（関西経済同友会）

- ・梅田という超人工的な都心にあるからこそ本物の自然がインパクトを持つので、中途半端に建物と緑地を同居させる折衷案では世界へのアピール力はない。大地に深く根を張った樹木に代表される植物、すなわち命あふれる生き物で構成される「ほんまもんのみどり」即ち「本物の緑地」をできるだけ大規模に確保してもらいたい。
- ・先行開発区域との関連性も重要だが、どう違いを際立たせていくかも大切で、2 期に独自性を持たせ世界に発信するために文化の薫りが必要。ナレッジという知の創造性を育むためにも役立ち、成熟都市と国際競争力の観点から強力な武器となるので、中核機能に文化のキーワードを入れるべき。

土屋局長（国土交通省近畿運輸局）

- ・梅田の既存の駅と新駅との歩行者空間の一体性だけでなく、案内や、バス、タクシーに乗るときの利便性についても一体的に考えるべき。

森局長（国土交通省近畿地方整備局）

- ・この拠点だけの「みどり」ではなく、周辺に広げていくことが必要。
- ・地下駅の設置を踏まえて、歩行者の上下移動を少なくする配慮をした移動しやすい動線を考えていくことが必要。
- ・250万人の乗り降りがあるエリアであり、ピーク時に大規模災害が起こる場合の対応などを考えておくことが必要。

真鍋社長（西日本旅客鉄道株式会社）

- ・近畿圏全体の現在の特急網が、大阪都心に乗り入れが可能になるということ
を最大限生かすような方策を考えたい。
- ・この「みどり」の地域が一体どの程度の人数を受け入れ可能なのか、一時滞留から一時滞在となったときにどう避難誘導していくのかも今後検討していくべき。

伊藤次長（内閣官房地域活性化統合事務局）

- ・うめきたは関西圏の中で非常に重要なところだという認識を持っておかねばならない。関西圏全体の中で、また、周辺との関係でどういう役割を果たすのか、戦略的位置づけを整理した方が、関係者の合意を得やすい。

橋下市長

- ① 「みどり」という視点は軸におくが、経済界、鉄道事業者、利用者の視点など、いろんな利害関係者の中でコンセンサスを図っていきたい。勿論、「みどり」を軸にしながらかこの地区だけを見るのではなく、さらに周辺も含め、関空からのアクセスの問題やその他利用者の視点も踏まえて、もっと大きな視点で、「みどり」を考えていきたい。
- ② なにわ筋線の話は、提案があったときは、まだ、はっきりと打ち出してなかったが、鉄道事業者等と議論を始めている中で、うめきた2期で何が必要かという議論も必要。